

2009年度西地区部会『館長懇話会』

日時：2009年6月19日(金) 11:30～13:00
場所：武庫川女子大学 中央キャンパス 本館7階会議室
テーマ：「教育・研究・学習活動の場としての大学図書館の機能強化とは」

1) 趣旨

中央教育審議会の答申により今日の大学は、「学士力の質保証」や「国際化推進」及び「大学院教育の実質化」等、尚一層、高等教育の改善が期待されております。大学全入時代を迎え、大学経営を取り巻く環境の厳しさを乗り越えるための工夫や努力が各大学に求められる中、そのことが私たちの携わる図書館運営にも求められています。図書館長が大学と図書館のビジョンを示しつつ、図書館運営の戦略企画を策定し、改革の実行に向けた指導力を発揮することがますます重要となってまいりました。

私立大学図書館協会西地区部会では、毎年、総会開催時に、館長懇話会を開催し、館長が一堂に集うことで親睦を深めつつ情報交換を行ってこられました。本年度も館長懇話会を開催し、将来の図書館運営や相互協力について話し合っていたいただき、諸問題解決の一助にさせていただくとともに、全ての加盟館の発展につながる機会にさせていただきたいと考えております。

2008年度の総会で行われた館長懇話会終了後に、前部会長校の大阪学院大学様から西地区加盟館にアンケート調査を行っていただきました。その結果を踏まえて、本年度の館長懇話会のテーマを「教育・研究・学習活動の場としての大学図書館の機能強化とは」といたしました。各大学図書館の課題やご意見を広く取り上げて情報交換を行いたいと考えております。

なお、2006年度の第4回館長懇話会から館長と共に図書館職員の方も陪席されており、昨年度は参加者総数が87名と大規模な懇話会になっていました。アンケート調査では、館長懇話会の円滑な運営を目的に、本来の形式に戻していただきたいとのご意見を頂戴しましたので、各大学図書館の館長先生のための懇話会とさせていただきますこととなりました。テーマとあわせて開催形式の変更についても2008年度私立大学図書館協会西地区部会第3回役員会でご了承いただいております。ご理解の程よろしく願いいたします。

2) アンケート結果

1～5	館長懇話会アンケート集計結果集約数値	2頁
3	教育の場としての図書館運営についてのご意見	3頁
4	研究の場としての図書館運営についてのご意見	4頁
5	学習の場としての図書館運営についてのご意見	6頁
6	その他のご意見	8頁

3) 懇談

館長懇話会アンケート集計

1. 回答校数 / 加盟校数 : 回答率

東海地区	(21校 / 52校 : 40%)
京都地区	(19校 / 42校 : 45%)
阪神地区	(33校 / 68校 : 48%)
中国・四国地区	(25校 / 43校 : 58%)
九州地区	(29校 / 54校 : 53%)
総計	(127校 / 259校 : 49%)

2. 1. 貴大学図書館の設置目的(主たる利用対象者)

総合図書館(大学構成員全体)	113校
学習図書館(学部生)	21校
研究図書館(教員・大学院生)	4校

3. 教育の場としての図書館運営

教育用コレクション構築(教科書・教員推薦図書、リザーブブック・指定図書制度)			
	重点的に実施	107校	課題として検討 6校
教育を支援する情報リテラシー教育(授業支援)			
	重点的に実施	54校	課題として検討 32校
グループ学習室等図書館施設の授業利用			
	重点的に実施	30校	課題として検討 27校
その他			
	重点的に実施	1校	課題として検討 0校

4. 研究の場としての図書館運営

研究用コレクション構築(研究用図書・雑誌・DB・EJ・EB)			
	重点的に実施	101校	課題として検討 10校
研究成果等の情報発信(リポジトリ・電子図書館・企画展示等)			
	重点的に実施	23校	課題として検討 53校
研究用個室等図書館施設の提供			
	重点的に実施	19校	課題として検討 10校
その他			
	重点的に実施	0校	課題として検討 0校

5. 学習の場としての図書館運営

学習用コレクション構築(カリキュラムに沿った選書・学生購入希望制度・学生による選書制度)			
	重点的に実施	112校	課題として検討 6校
参考調査・利用相談・利用ガイダンス等の人的支援			
	重点的に実施	79校	課題として検討 19校
自学・自習場所の提供			
	重点的に実施	73校	課題として検討 12校
その他			
	重点的に実施	0校	課題として検討 0校

6. その他(本テーマに関わらず、各図書館が取り組まれている事業や課題などご自由にお書き下さい)

3. 教育の場としての図書館運営についてのご意見

- ・ 教員推薦図書はコーナーを設置
- ・ 教員による推薦図書制度あり
- ・ 教員からの申請によりDB講習会実施（'08Aキャンパス14回、Bキャンパス23回）
- ・ 講師となる図書館員の不足、PC教室不足により積極的な周知・実施が不可能である。
- ・ グループ学習室を利用しての授業は施設面で充分ではない。
- ・ 本学の資料収集方針では、カリキュラムに沿った学習用資料の収集を基本としている。具体的にはシラバス・講義概要システムに掲載された参考文献を収集し、同システムからOPACへリンクする機能をシステム間で実現しているため、学生への貸出率も高い。
- ・ 各学部が1年次生等に提供する導入教育科目を中心に講義時間の1コマに、情報探索の技「入門」役立つ「図書館活用術」+館内ツアーを行って図書館利用教育を実施している。受講生は新入生の約65%の3,500名程度が受講している。また、情報探索の技には、初級、中級と主題分野やデータベース及びWeb情報の活用等の講習会を企画して、体系的な利用教育を行っている。
- ・ 大学の教育目標を達成する為に必要な蔵書構築に向けて、シラバス掲載図書の計画的整備と利用促進、学部毎のコアブックの収集を実施。全学共通の普遍的資料(リベラルアーツに必要な教養書等)の収集は、今後の課題としている。
- ・ 適切な情報・資料の収集・選択・利用のため、新入生に対して各学部と連携して授業の一環としてリテラシー教育に取り組んでいる。同時に分野毎のDB利用等を体系化し講習会やクラス出張ガイダンスとして通年で実施しているが、学習スタイルとしての定着が課題である。
- ・ 各科目に関して、担当教員と図書館が共同して学生の学習を支援するため、どのような体制を構築するべきか？
- ・ 教科書、教員推薦図書、指定図書などを、どのように選定しどのように配架するのか？
- ・ ビデオなどの資料を、教育に活用してもらうために工夫は必要か？
- ・ テレビ番組の録画ビデオなどをサポートできないか？
- ・ 授業支援については必要性を認めるが、人員確保が困難。
- ・ 図書館施設の授業利用については、教員が余裕を持った授業実施ができないため、有効利用できていない。
- ・ 教科書を購入するかどうか、今後の課題である。
- ・ 教科書は原則として蔵書資料対象外である。
- ・ 教員推薦図書は、毎年各教員に依頼している。必読図書・参考図書も事前に知らせてもらうように依頼している。
- ・ 演習・ゼミ・卒業研究などの時間に、教員の希望メニューでガイダンスを行なっている。
- ・ 学生自習室はあるが、授業のできる広さではないため、グループ学習・会議用として利用している。
- ・ 指定図書制度を導入しているが、教員サイドの利用が増えない。他大学の工夫・実情を教えて欲しい。
- ・ 図書館利用を前提にした授業科目(レポートの組み立て方など)の開講に向けてグループ学習室等、図書館施設を検討している。
- ・ 教員との連携をどのようにとるべきか？
- ・ 学部一般図書、指定・参考図書購入(シラバスと連携)
- ・ 情報探索講座(図書館主催)
- ・ グループ学習室の増設と利用促進のために教員・学生へのPRを行なっている。
- ・ 教育用コレクション構築については、指定図書制度の更なる活用が望まれる。学生に読ませたい教員からの推薦図書制度を導入予定。
- ・ 情報リテラシー教育は学士力向上の視点から教員を巻き込むことが必要。
- ・ 教育用コレクション構築は従来から実施している。
- ・ 図書館施設の授業利用については、FD推進のために検討している。
- ・ 1年生の必修科目「ファーストイヤーセミナー」(初年次教育科目)を図書館が担当している。図書館利用ガイダンスや館内ツアーを行い、課題を課して単位認定資料を科目担当者に提出している。

- る。1年生 約 1500 名 90 分授業 (2007 年度より)
- ・各学部の推薦図書を選書、教員自著本コーナー、国家試験対策コーナー、シラバス指定図書の充実を図っている。
- ・講義内における文献検索ガイダンスの実施
- ・学科・教員推薦図書、指定図書、シラバス図書の構築・整備
- ・希望者に対し、的確な情報を得るためのリテラシー教育を実施
- ・授業の一環として図書館の見学会を実施

4. 研究の場としての図書館運営についてのご意見

- ・開館期間・時間帯の拡大要請と勤務体制の壁をいかに克服するか。
- ・各教育主体予算における教員による研究用図書、雑誌の選書が行なわれている。年間 1 億円を超える約 40 種類 DB、約 3000 タイトルの E J、約 300 冊の E B を揃え利用に供している。
- ・学術リポジトリによる学位論文の公開を予定している。
- ・2 キャンパス図書館に教員用閲覧室が 1 室。
- ・基本的に、組織・予算・選書・購入・配架を各研究科・研究所・センターで管理し、構築している。ただし、一学部で購入が困難な高額資料については、図書館に共通費を設けて、各部科の推薦を募り、図書館所蔵として購入している。また、P U L C 電子ジャーナル契約の集約窓口を図書館とし、研究資料である電子ジャーナルの導入を扱っている。
- ・研究紀要 (26 タイトル、約 1 万 1 千論文)、研究センター報告書、学位論文 (要旨)、学内関係刊行物、貴重書デジタルアーカイブズをリポジトリに収録し、情報発信している。
- ・全学の研究用予算を統合して、予算の効果的執行をはかると共に、学部単位では整備しにくい高額の E J や DB、大型コレクション等を全学で計画的に整備している。
- ・機関リポジトリのプラットフォームを図書館が提供し、大学の窓口と情報を一元化し研究成果の社会的発信をはかっている。
- ・アーカイブについて、すでに研究所にて特定分野 (古典芸能・文化) のアーカイブ化を実施しているが、図書館としては、外部機関との共同事業としてデジタルアーカイブ化に着手した段階であり今後の課題である。
- ・研究成果等の情報発信については、予算・人員確保、教学における合意形成等の課題があるが、できるところから取り組みたい。
- ・DB は新聞関係 3 種類、雑誌系 2 種類、知識系 1 種類を購入している。
- ・研究紀要の本文情報を CiN で発信している。
- ・研究用個室等の提供は行っていない。
- ・大学院生に対する利用サービスの改善を目標の一つとし、図書館資料の充実や利用方法の見直し、例えば、貸出冊数の変更など、図書館委員会で協議・決定して、大学院生のニーズに添えている。
- ・大学全体が「教育」に大きく傾いており、また予算的にも厳しくなる中で、「研究」が疎かになりがち。バランスをどうとるか苦慮している。
- ・コレクション・記念文庫コーナーの開設
- ・情報発信として修士・博士論文の要旨検索 (学内)、紀要等目次情報、展示会 (教員資料展示・広報誌)
- ・個室閲覧室の設置
- ・EJ、リポジトリの構築ともに、経済的負担が大きく苦労している。
- ・研究用コレクションの中で雑誌や電子情報は、価格高騰による予算への圧迫があり、思うように購入できていない。
- ・研究成果等については、大学のリポジトリへの登録数がまだ少ない。
- ・研究成果等の情報発信については、近い将来に実現するよう検討中である。
- ・2007 年度から 3 年計画で E J の整備を行なった。
- ・2010 年に向けて、リポジトリによる研究成果等の情報発信を行なう予定。

- ・地域の共同リポジトリに参加しているが、データアップがなかなか出来ない。対策について各大学に伺いたい。
- ・E J やD Bの充実を図る。
- ・研究用図書購入予算配付、雑誌体減少にともなうD B・E Jの充実・整備
- ・研究論文集D Bの公開
- ・研究用閲覧室はあるが、研究用個室は未整備

5. 学習の場としての図書館運営についてのご意見

- ・カリキュラム担当教員による選書を行なっている。
- ・平日（9：00～22：00）、日・祝日（9：30～17：00）開館時間を延長し、学習の機会を増やしている。日・祝日開館は業務委託をしている。
- ・ラーニングコモンズ実現のための要件とはなにか。
- ・シラバスに記載している参考文献の図書館所蔵、学生による購入図書制度、A図書館では学生アルバイトによる選書を実施（学生が選書した本の受入れ可否は、選書会議で専任職員が行なう）
- ・入学時のオリエンテーション、図書館ツアー、各カウンターにおける利用者相談への対応
- ・閲覧席の充実（A図書館 1123席、B図書館 311席、C図書館 828席）また、什器入替えによる環境整備を行なっている。
- ・図書館と各部に学習資料と研究資料を分散管理して、学習・教育・研究に供している。カリキュラムに沿った選書を行い、教科書のみならず、学生の履修に関わる関連資料として、各分野の研究に必要な基本的・標準的資料、学際的な資料、各分野に共通する参考図書資料、学生の教養を高め人間形成に役立つ資料、本学の歴史に関する資料、特色あるコレクションの充実を資料収集の範囲とし、学部学生を中心とした学習支援を行っている。
- ・参考調査といわゆるレファレンス業務は、2校地の図書館で、専任及び契約職員にて行っている。利用ガイダンスも導入教育支援のみならず、個人利用の申込も受付けている。
- ・2キャンパスに2つの図書館を提供し、合計約2600席（学生数の約10%）の閲覧場所を提供している。またキャンパス整備計画で、現在、図書館外にラーニングコモンズの設置を検討している。
- ・学部カリキュラムに沿った選書を行い、教員・学生からの購入希望による選書も行なっている。
- ・リテラシー教育をフォローし自主学習を促進するために、eGuidance（構築中）、LS（学生ライブラリースタッフ）による推薦図書、教員による推薦図書（いずれもWebと図書館内コーナー）等を開設。レファレンスと利用ガイダンスを一体化し、専任職員、委託職員、LSで役割分担しながら、学習効果をたかめるサービスの提供と、そのための適切な環境整備が今後の課題である。
- ・卒業論文などに必要とする図書・資料の購入希望に関する制度と運営
- ・レポート提出時期などに発生する自学・自習場所の混雑、資料調査・利用などに対する人的支援の限界に対して、教員との連携に関する工夫
- ・より身近な存在として、図書館利用の促進をはかっていきたい。
- ・初年次教育の一環として、図書館利用ガイダンスをゼミ毎の少人数で実施している。卒研ゼミには論文検索ガイダンスをゼミ毎に実施している。
- ・シラバスをもとに選書するほか、図書館HPの初めに掲示板をおき、利用者の声やリクエストに迅速に対応している。
- ・全スタッフがカウンターに座り、相談・質問に応じている。利用ガイダンスも少人数制にしている。
- ・自習室がありパソコンがあって自学自習が可能である。
- ・私物のPC等の持込をどうするのか苦慮している。
- ・指定参考図書購入（シラバスと連携）、学生希望図書制度、学生選書ツアー、学生Web選書（2009年度～）
- ・ライブラリーツアー（新入生および上学年）

- ・多目的室（ネット対応 50 席）設置、閲覧室（キャレル・グループ・共同等）設置
- ・ここ 2～3 年、学生購入希望図書を増やし、また図書館サポーター（学生組織）による選書を行なうことにより、学生の入館・利用が増加した。
- ・学習用コレクション構築は十分な状態であるが、研究用コレクションの購入予算に圧迫されて予算が縮小されている。学生による選書制度は考えていない。
- ・自学・自習室として資格試験の個室がある。
- ・本学の図書館として「学習の場としての図書館運営」は最も力を入れている部分である。
- ・学生による選書制度では、2007 年度からカタログによる選書に加えて、ブックハンティングを導入した。
- ・2008 年度から学生ピアスタッフによる利用支援を開始した。
- ・本学は国家試験のある学科が多く、自学・自習場所の提供が急務であると考えている。
- ・学習成果物の展示・発表の場を提供
- ・公開授業の場を提供
- ・学生リクエスト制度の活性化
- ・時間外におけるレファレンスの実施
- ・コース（学科の内訳）毎の選定図書、教員の推薦図書、学生購入希望図書あり。
- ・学生の勉強サポートという観点から、業務を遂行している。
- ・シラバス図書の購入整備、学生リクエストによる図書購入、学生委員による選書ツアー実施
- ・文献の所在調査、文献貸借、文献検索オリエンテーション、EJ 利用ガイダンス等の実施
- ・グループ学習室等の整備

6. 其他のご意見

- ・学生自らが情報収集・情報伝達できる基礎的能力を付させるために、図書館の利用指導に力を入れている。
- ・基本的な DB はほぼ整ったので、今後は EJ の充実を図りたい。
- ・各種イベントの実施（テーマ展示、コンサート・落語講演、絵画展、七夕祭りなど）
- ・地域貢献
- ・利用率増について検討中
- ・中国関係図書の体系的構築と利用への配慮
- ・メディアセンターの設置
- ・分館の設置
- ・地域交流（図書館利用案内）
- ・読書勧奨企画（推薦図書コーナー、テーマ図書コーナー設置。POP 募集など）
- ・卒業生の図書館利用無料化
- ・利用者用 PC 台数を増加し、web 上からの情報収集環境の改善を図る。
- ・リンクリゾルバ（DB、EJ のリンク機能）の導入
- ・学習図書館としての大学の教育・学習支援を強化するために、新たな機能や環境設備を検討している。
- ・新図書館建築の課題
- ・配架スペースの問題
- ・除籍図書・雑誌の問題
- ・現在、学生 1 人あたりの蔵書比率が低いので、これを解決する努力を行っている。
- ・図書館職員による収集資料紹介
- ・図書館の広報活動
- ・学生選書（公募メンバー・一般利用者からのリクエスト、店頭選書ツアーの開催）
- ・指定図書の充実（複数部数購入し、1 冊は短期＜3 日間＞貸出可）
- ・特設コーナー企画【Topics】
特定テーマに基づき、一定期間関係資料をコーナー化・貸出可）

- ・資料保存（脱酸処理、レガシーメディアのDVD化）
- ・利用者からの投書対応（『館長直々』投書箱設置・回答掲示）
- ・図書館業務専門化への対応 専任職員の減少、一般事務局化
- ・司書の養成、古典籍資料の整理・公開
- ・主として学生・院生に対して、情報リテラシー教育（あふれる情報の中からいかに自分の求める情報を的確かつ迅速に得るか？）に力を入れている。
- ・自館にない資料については、購入以外にも他大学・公共図書館への利用案内、現物貸借など他館の情報も提供できるサービスを行っている。
- ・ホッとできる居場所的空間を提供できるよう温かい対応を心掛けている。
- ・地域開放を行っている。
- ・限られた図書館予算とスタッフという条件下で、どのように上記目的を達成するかをスタッフの献身的執務と努力に頼っている。
- ・学部・学科の改変等、大学が同様している中で図書館はどう対処していくのか。
- ・現在開学3年目を迎えたところだが、予算が厳しい状況にあるため、蔵書や設備・施設の充実に苦難している。そのような中でもサービスの拡大やPR活動に力をいれ、利用を増やしていく考えである。自館の特色をいかに出すかも検討中。
- ・図書予算の減少
- ・蔵書や学習スペースの確保
- ・選書ツアー（直接書店へ行き利用者が自由に本を選び、図書費で購入するもの）を実施することにより、一部図書の充実を図っている。
- ・ノートPCを館外貸出しすることにより、教育・研究支援を促進し、利用者へのサービスを行っている。
- ・学生自信が学習用資料を利用して、読み書きの力を高めるための図書館活動の実施。
- ・利用統計の調査分析や学生参加の図書館活動の実施。
- ・各種ガイダンスの充実などを通して利用促進を図る。
- ・「学生とともに創る活動的な図書館」を構築するために、「あなたを輝かせる毎週1冊」読書運動を2008年度から展開している。その利用促進事業として、具体的に読書ラリー、感想文集、講演会を実施。読書ラリーでは、感想文作成回数（ポイント）によりオリジナルバックを進呈。
- ・経済的側面では人員、施設、設備で不自由を感じている。大学全体の経営が厳しくなっていく状況で、今後より一層の努力が必要。
- ・ブックディテクションを導入。
- ・地域への開放
- ・情報リテラシー教育（授業支援）や自学・自習場所の提供については、大学と大学図書館が協力して推進すべきものである。
- ・事業：地域連携と初年次教育
- ・課題：アーカイブ的文献とサイバー的情報との調和
- ・2005年度以降、学部学生への図書貸出冊数が減少傾向にあり、この対応が課題の一つである。
- ・2007年度から導入したブックハンティングを取り入れたのはこの対策であり、学生目線での選書などを図っている。
- ・ラーニング commons 機能をもった空間の確保も課題と考えている。
- ・自学・自習スペースを確保することと試験前（特に国家試験）の日曜開館などの支援も必要と考える。（今期より実施予定）
- ・小学校との連携（読書感想文コンクール、学生食育教育等）
- ・ランチタイムコンサート（年4回程度開催）
- ・講演会・えほん講座の主催
- ・図書館利用教育の浸透
- ・情報環境の多様化への対応

- ・地域に開かれた図書館への模索
- ・学部学科の改編等に即した教育研究用コレクションの再構築
- ・2008年度より図書館職員が1名となり、日常業務に支障をきたすような状態になりつつある。
- ・1名もしくは少人数で図書館業務をされている図書館の方に対処方法をお聞かせいただきたい。
- ・地域住民へのサービス（閲覧、館外貸出等）についても重点的に実施
- ・昨今学生の活字離れが問題視されている中、学生をいかに図書館へ呼び込むかが課題である。
- ・本学では教員との連携を図りながら、授業での図書館利用を推進しているが、館内にはグループ研究で活用できる場所が無く、設置に向け検討中である。
- ・重複図書の整理と廃棄
- ・マンガ本の購入基準について
- ・ブックレター、ポイントサービス
- ・図書館利用者の拡大への取り組み